

関西社会福祉学会ニュースレター

2007年度2号

巻頭言

昨年の日本社会福祉学会では、大阪市立大学を会場に日本の社会福祉を熱く（暑く？）語り合うことができました。関西の会員各位には、全国の会員を迎える側としてそれぞれにご尽力いただいたことと思います。この場を借りてあらためて敬意を表します。その熱気もさめやらぬ中ではありますが、来る3月1日には関西社会福祉学会が開催されます。寒気を吹き飛ばす勢いで、これも大きな成功をおさめたいと思います。

今、内外の政治・経済状況が大きく変動しつつあり、また人びとの生活の諸局面において人間性にかかわる危機的状況が拡大しつつある中で、社会福祉と社会福祉学の存立意味が厳しく問われています。

さらに社会福祉専門職とその養成教育のあり方が大きな変革期を迎えています。また同時に、足下の大学等私たちの教育・研究活動の基盤も、大きな変動期を迎えており、大学のあり方もまた厳しく問われています。

とかく目先の「成果」が問われ、大学としても、研究者個人としても、自らの「生き残り」こそが現実的な課題とされがちな状況の中で、社会福祉学という学問を研究する者の姿勢が、今まさに問われているのではないのでしょうか。2008年においても、あらゆる機会を利用して、おおいに語り合い、社会福祉学の未来を切り開いていきましょう。

（望月 彰）

2007年度関西社会福祉学会年次大会・ 日本社会福祉学会関西西部会総会案内

標記の大会を下記のとおり開催します。会員のみなさまには、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2008年3月1日（土）9時30分 - 19時15分
会場：大阪府立大学

〒599-8531 堺市中区学園町1-1
地下鉄御堂筋線「なかもず」駅下車20分
南海高野線「白鷺」駅下車10分
<http://www.osakafu-u.ac.jp/>

大会テーマ：格差社会と社会福祉・社会保障

開催趣旨：90年代後半以降、「格差」もしくは「格差社会」が社会問題となり、政治課題ともされています。社会福祉の実践領域においても研究領域においても、この問題が重大な課題となっていることは否定できません。しかし、現代日本において進行しつつあるこの状況は、単に「自由な」経済活動がもたらした所得=生活「格差」もしくは「格差」の拡大という考え方でのよいのか、むしろ古典的な「貧困化」の再現および貧困層の拡大・固定化と捉えるべきではないか、あるいは新自由主義政策がもたらした社会福祉（制度・政策・行政）の衰退・機能不全ととらえるべきか、いずれにしても、このような状況に対して社会福祉の実践・研究にはいかなる課題が突きつけられているのか等々、さまざまな議論の余地があります。

基調講演では、ながらく大阪府立大学において社会保障の教育・研究に携わってきた里見賢治氏（大阪府立大学名誉教授、現在、佛光大学）に、近年の「格差」論について整理していただきます。また、近年の社会保障改革、特に医療・年金制度改革の評価および問題点を析出していただきます。

さらに、これを受けたシンポジウムとして、生活保護行政と貧困問題に関する研究分野および実践現場から問題提起をしていただき、社会福祉に期待される課題について検討したいと思います。吉永純氏（花園大学）には、近年の生活保護のあり方をめぐり、最後のセーフティネットである生活保護の本来の役割との関連で、生活保護制度改革たとえば、生活扶助基準の切り下げの影響の大きさなどに関する問題点と課題などを提起していただきます。海老一郎氏（西成労働福祉センター）には、野宿者支援の現場から社会福祉の研究に何が問われているのを提起していただきます。中山徹氏（大阪府立大学）には、それらを受けて、社会保障・生活保護からのもれの問題、究極の「格差」・貧困問題として「野宿生活者」問題と全国調査における各自自治体におけるホームレスに対する生活保護適用状況分析と社会保障問題について提起していただきます。

また、午前中の口頭発表においては、後で紹介するように、大阪府立大学の若手研究者による自主シンポジウムも用意しております。口頭発表につきましても、みなさまの積極的な提案を期待しております。

プログラム：

<受付> 9時30分 -

・大阪府立大学A4棟(社会福祉学部)玄関ロビー

<口頭発表> 10時30分 - 12時30分

・大阪府立大学A4棟(社会福祉学部)4階

(休憩 12時30分 - 13時30分)

昼食は各自

<総会> 13時30分 - 14時15分)

・大阪府立大学A 5棟(工学部)1階階段教室
(以下、会場は同教室)

<基調講演> 14時20分 - 15時30分

テーマ: 格差と社会保障

講師: 里見賢治(佛教大学)

<シンポジウム> 15時40分 - 17時40分

テーマ: 格差と社会福祉

シンポジスト 吉永 純(花園大学)

海老一郎(西成労働福祉センター)

中山 徹(大阪府立大学)

コメンテーター: 里見賢治(佛教大学)

コーディネーター: 上掛利博(京都府立大学)

<懇親会> 17時45分 - 19時15分

・大阪府立大学学術交流会館サロン

年次大会の終了後、懇親会を開催します(会費は3,000円、学生は1,500円)。会員相互の研究交流や情報交換の場として、有益な時間にしたいと思えます。ふるってご参加くださいますようお願いいたします。

大会参加費: 無料

ただし懇親会は3,000円(学生1,500円)

大会および懇親会の申し込み・問い合わせ先:

大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科

望月 彰 研究室

E-mail: mochi@sw.osakafu-u.ac.jp

電話&ファックス: 052-254-9785

「関西社会福祉学会参加、懇親会参加申し込み」と明記し、お名前、ご所属、連絡先をお書きの上、メールもしくはファックス、郵送等で申し込んでください。

懇親会費は当日受付にてお払いください。
大会・懇親会ともに当日参加も歓迎いたします。

自主シンポジウムのご案内:

<テーマ> ライフサイクル・ライフコースから見た
障害者福祉研究に関する方法論的課題 - 社会福祉学における質的研究のオリジナリティの追求

<時間> 10時30分 - 12時30分

<会場> 大阪府立大学A 4棟(社会福祉学部)4階
口頭発表のひとつとして実施します。

<企画・司会> 田垣正晋(大阪府立大学)

趣旨: 我が国の障害者福祉の研究及び実践において、ライフサイクル・ライフコースという視点が注目され始めている。ライフサイクル・ライフコースという視

点は、人が生きる時間軸と空間軸のうち前者に特に注目したとらえ方である。これまでの社会福祉学研究は、システム論やケアマネジメントの概念のように、空間的視点を重視しているが、近年の学術誌には、時間軸を長くにとって障害者がかかえる課題を明らかにしようとする研究が掲載されつつある。実践面では、障害者基本計画等の行政文書にライフステージ毎の課題と支援を要することが記載されつつある(例えば第3次堺市障害者長期計画)。

時間軸を長くすることは、決して「真の自立」「真の成長」「真の受容」というような、高い有効性を追求めることではない。むしろ、従来の「自立した(せねばならない)」という利用者の目標(あるいは社会的役割期待)の相対化につながる。例えば障害者の自立支援計画を策定するにあたっては、障害者のどのような時期のどのような場面を想定して、いかなる支援を展開するのかを明確にしなければならなくなる。20歳で独身の大学生の男性障害者を想定してみよう。彼には職場、家庭、地域、趣味のサークル、障害者団体などの生活場面がある。仮に、学生という時期と場面において「自立」していても、時間経過に伴い、卒業、就職・転職、結婚、子の誕生等により新たな問題や困難に直面し、再び自立を迫られることもある。

本企画では障害者福祉におけるライフサイクル・ライフコースという視点から、障害者福祉研究の方法論について再吟味し、社会福祉学のあり方の問題として、とりわけ質的研究の活性化の方途を検討したい。特に社会福祉学研究としての質的研究の隣接分野からの差異化を考えてみたい。

<話題提供>

- ・田垣正晋(大阪府立大学)「障害者福祉におけるライフサイクルとライフコース研究にライフストーリー法はどう活用できるか」
- ・古井克憲(日本学術振興会特別研究員・大阪府立大学人間社会学研究科)「アクションリサーチから考える重度知的障害者のライフサイクルとライフコース」

(望月 彰)

自由研究発表の募集

1. 申し込みの締め切りについて

2008年2月24日(日)までに下記の松端まで郵送もしくはメールにて、自由研究発表要旨を送付(送信)してください。なお、発表する方は、事前にメールにて、2月17日(日)までに、氏名、所属、主題について、松端までメールにてご連絡ください(受信後、確認のためメールを返信します)

2. 自由研究発表要旨と資料について

今大会の自由研究の発表要旨は、全国大会の要領に準じて、以下のようにいたします。

(1) 用紙サイズ・枚数

1 発表につき A 4 版 1 ページの横書き

(2) 余白

上下左右 25mm (目安)

(3) フォント

主題 - 12 ポイントゴシック

副題 - 10.5 ポイントゴシック

所属 - 9 ポイント明朝 氏名 - 10 ポイント明朝

会員番号 - 9 ポイント明朝

キーワード - 9 ポイント明朝

以上を用紙の上側に罫線で囲んで記載してください。

見出し - 10 ポイントゴシック

本文 9 ポイント明朝 1 行 48 ~ 50 字程度

(4) 自由研究発表要旨と資料について

提出いただいた自由研究発表要旨は、当日の大会・総会資料と一緒に綴じ込み配布いたします。

また、当日配布資料については、各自印刷の上、50 部を持参してください。

3. 宛先

郵送の場合 〒594 - 1198 和泉市まなび野 1 - 1
桃山学院大学 社会学部 松端克文
0725 - 54 - 3131 (代)

E-mail の場合 katufumi@andrew.ac.jp
(松端克文)

第 11 回 若手研究者・院生情報交換会案内

テーマ：「現実をとらえる視点と方法

社会福祉研究法をめぐって」

日時：2008 年 2 月 23 日 (土) 14 時 - 17 時

場所：関西学院大学

梅田ハブスクエアキャンパス 1405 教室

内容：今回の若手研究者・院生情報交換会は、昨年の情報交換会を通して結成された関西の院生ネットワーク有志が企画し、準備を進めてきました。テーマにもあるように、前半は、社会福祉の研究法について、実践における調査研究に意欲的に取り組まれておられる先生方にそれぞれの研究方法について発表していただきます。会の後半は、院生代表者からの質問と先生方の応答によるフリーディスカッションを行い、また会場の参加者からの質問やコメントを受け付けたいと思います。大学院生の積極的な参加を期待しています。

パネリスト：

上掛利博先生 (京都府立大学・教授)

武田丈先生 (関西学院大学・准教授)

三毛美予子先生 (甲南女子大学・准教授)

司会進行：

川島ゆり子 (関西学院大学大学院・研究員)

院生代表：

中原耕 (同志社大学大学院・博士後期課程)

近棟健二 (大阪市立大学大学院・前期博士課程)

堀善昭 (立命館大学大学院・修士課程)

参加費：無料

参加申し込みは、下記のメールアドレスに所属と名前、懇親会参加の有無を書いて送ってください。

連絡先アドレス kansai.insei@gmail.com

懇親会：有料 (高額にならないよう努力します)

情報交換会終了後、梅田駅周辺で懇親会を予定。

(岡田直人)

第 12 回 若手研究者・院生情報交換会案内

企画が遅れておりました第 12 回の「若手研究者・院生情報交換会」が、下記の通り決まりましたので、ご案内します。

今回は、社会福祉の「哲学・思想の分野」を取り上げたいと考えまして、龍谷大学短期大学部の加藤博史先生にお願いすることができました。

4 月の第 2 週という、新学期も始まってあわただしい時期ではありますが、新しく入学された院生も誘い合わせて参加していただける好機でもあります。

今からスケジュール帳に書き込んで、ご予約いただくとともに、みなさまの大学・大学院でも、宣伝していただければ幸いです。

<記>

話題提供：加藤博史 (龍谷大学短期大学部教授)

テーマ：「人権、自己実現、QOL の定義に挑む

～塩野谷祐一、古川孝順、武川正吾をオカズに～」

日時：2008 年 4 月 12 日 (土) 14 時 - 17 時

(終了後、近くで懇親会を予定)

場所：龍谷大学深草学舎「紫英館」(東南角の建物)

2 階東第 2 会議室

(上掛利博)

第 10 回 若手研究者・院生情報交換会報告

記念すべき第 10 回の情報交換会は、会の発起人でもある同志社大学名誉教授井岡勉先生をお迎えして、2007 年 7 月 21 日 (土) 同志社大学新町キャンパスで

行われました。ご報告のテーマは「地域福祉の国際比較を追究する～東アジアモデルと西欧モデルとの比較～」で、当日は大学院生、研究者、さらに国際比較というテーマもあり、多数の留学生や、井岡先生のご指導を受けられた現場職員も多数参加され、合計31名の方が参加されました。

今回のご報告で井岡先生は、ご自身が代表として平成15年度から4年間に渡り取り組まれてきた、科学研究費補助金採択研究「地域福祉の国際比較 - 日韓・東アジア類型と西欧類型の比較 -」を通して得られた研究成果を発表してくださいました。

そもそも井岡先生が地域福祉の国際比較に関心を持たれたのは、井岡先生が京都府社会福祉協議会の職員だった時、国際研修プログラムに参加する機会に恵まれ、米国を訪問し、現地における民間非営利の活動について調査されたことがきっかけでした。その後、同志社大学の教員となってからは、英国ロンドン大学スクール・オブ・エコノミックスの客員研究員として、英国の民間非営利による活動を学び、問題意識を深め、今回の国際比較研究へと発展したとのことでした。

ご報告では、4年間の研究期間に訪問されたスウェーデンや英国、韓国で撮影された写真をご紹介くださり、3時間では時間が足りないほど、内容豊富なものとなりました。井岡先生は、エスピン・アンデルセンによる福祉国家の国際比較を参考に、日本や韓国における地域福祉の位置、その中でも特に社会福祉協議会などの主体に焦点を置いて、国際比較を行われていました。井岡先生は、国際比較の困難さに触れながらも、比較対象の地理的条件や自治体の条件などを近づけることで、比較における不確定変数を低下させるという研究の視点と方法を説明してくださいました。

3時間の情報交換会終了後は、同志社大学キャンパス内のレストランにて、18名の参加者を得て、懇親会が催されました。最新の研究動向について学識を深めるのみならず、懇親会を通して研究の裏話なども耳にすることができました。今後も、こうした学術交流が継続されることを期待し、いつかは自分も学識を提供できる側として貢献できればと思います。

(同志社大学大学院 博士後期課程2年 室田信一)

B会員会費納入のお願い

2003年度総会で決定され、既に過去のニュースレターでもお知らせしていますように、2004年度から日本社会福祉学会の関西部会の方は自動的に関西社会福祉学会のメンバーとなり、会費は日本社会福祉学会からの還元金を当てることとなりました。(A会員)

一方、日本社会福祉学会の関西部会員でない方、日

本社会福祉学会の会員ではないが関西社会福祉学会の会員である方は、今までどおり年会費を2,000円とすることになりました。(B会員)

従って、B会員の方は本年度会費2,000円を納入いただくようお願いいたします。なお、納入は、郵便局からお振り込みください。前回、郵便局の払込取扱票を同封しておりましたが、必要な方は、岡田までご一報ください。

また、2007年5月21日の理事会において、会費納入が3年間ない方については、B会員から除名とし、次年度以降の案内は行わないことになりましたので、併せてお知らせいたします。

本ニュースレターを送付した封筒の宛名ラベル右下に「B」と印刷されている方がB会員です。万一、「B」と印刷されているものと印刷されていないものが2通届いている場合は、その方はA会員です。お手数ですが岡田(E-mail:okadan@osaka-ohtani.ac.jp)まで、ご一報ください。

(岡田直人)

B会員で連絡先不明の方々

現在、次のB会員の方々の連絡先が不明となっております。ご存じの方は、その方あるいは事務局へご一報ください。

新井康友 桂泰三 川田美也子 小関なおみ
鄭逸教 中村文彦 野中ますみ 藤原苗
宮崎隆太郎 村上勝 吉岡正勝 呼子純子(敬称略)

(岡田直人)

機関紙担当から

今年は担当者の不手際で、第二号の発行が年明けになってしまいました。すみません。

その分、大会案内、二回の交流会の案内などを盛り込むことができました。

ぜひご出席ください。(小山 隆)

関西社会福祉学会ニュースレター

発行日 2008年1月25日

発行者 会長 岡本民夫

関西社会福祉学会事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学生活科学部社会福祉学研究室気付

電話 06-6605-2895 Fax 06-6605-2894